結　　論

本研究の目的は，第 1 に，地方圏の祭礼の代表的な存在である徳島市阿波おどりを対象とした市民アンケート調査を通じて，市民の阿波おどりとの関わりが，人と人とのつながりなどのソーシャル・キャピタルや日常生活の質（QOL）などに与える影響を調査すること，第 2 に，徳島市阿波おどりの踊り手である連員を対象としたアンケート調査を通じて，踊り手組織である連の課題，連や連員のコロナ禍で受けた活動制限等の実態，さらに，連員個人の阿波おどりとの関わりが，人と人とのつながりなどのソーシャル・キャピタルや QOL などに与える影響を調査することによって，徳島市阿波おどりに代表される伝統的祭礼の存在意義を学術的に明らかにすることであった．

本研究では，徳島市民の阿波おどりとの関わりの実態，阿波おどりの担い手・踊り手の組織である連のコロナ禍や中長期における課題，市民と阿波おどりの連員のソーシャル・キャピタルの実態を二つのアンケート調査から定量的に明らかにした．特に，信頼については，知人への信頼（地域内の知人への特定信頼），他人への信頼（地域内や地域外の他人への一般信頼）のいずれにおいても，連員のほうが「ある程度信頼できる」や「信頼できる」を選択する割合が高いことが確認された．ただし，この分析結果は，連員も市民も他人に対して，「とても信頼できる」がまったく選択されておらず，連員が市民よりも他者への著しく高い信頼を有していることを示すものではない．

さらに，連員であることが，他人を「まったく信頼しない」を選択する割合を大きく低下させることが確認された．一般に，他者への信頼のない社会（組織や地域）では，人々が互いに疑心暗鬼になり，機会主義的行動をとるようになって，誰も人のために尽くすとか，他者と協調しようとはしなくなるため，地域社会も，経済も活動が停滞してしまう[1)]．他人をまったく信頼できないという人々の態度を減らすということは，地域社会の持続可能性を高めるには不可欠であり，本稿の分析結果から，阿波おどりとの関わりが，それに寄与する可能性が示された．

このように，阿波おどりに代表される伝統的祭礼には，人々の信頼等のソーシャル・キャピタルの構築を通じて，社会の効率性を改善する可能性が示されたが，阿波おどりとの関わりは，連員だけに止まらない．連の活動をサポートする人々や地域等で運営を支える人々等にとっても，居住地域や年齢を超えた多様な人々への信頼等のソーシャル・キャピタルの構築に寄与することが期待される．したがって，阿波おどりを通じた信頼等のソーシャル･キャピタルの構築は，有名連の連員に限定されるものではないはずである．ただし，連員以外の阿波おどりとの関わりのある個人は本稿の対象外であるため，検証は今後の課題である．

1）　卑近な例を挙げれば，うっかり自分の持ち物を外に置き忘れようものなら，誰かが平気で自分のものにしてしまう社会になるだろう．

さらに，本稿には，以下の点が今後の研究課題として残された．

第 1 に，本研究の目的は，徳島市阿波おどりに代表される伝統的祭礼の存在意義を学術的に明らかにすることであったが，徳島市阿波おどりに関わる大規模調査は行ったものの，阿波おどりは東京圏を含めて全国的に展開されており，地方圏だけでなく都市圏の阿波おどりやその他の伝統的祭礼に関する調査は実施することができなかった．

第 2 に，徳島市阿波おどりは地域の伝統的祭礼であるものの，今日の徳島市阿波おどりの主要なアクターである有名連は，地域密着の地縁組織というよりは，徳島市民だけでなく，周辺自治体の住民も多く参加する，ブリッジング型の多様な人材からなる組織であることが確認された．しかしながら，連の詳細な組織構造や活動実態，他の祭礼の担い手組織との違いについては調査には至らなかった．

第 3 に，踊り手の組織の盛衰は祭礼自体の持続可能性を左右するため，本調査では，連の中長期的な課題についても調査し，人員確保や高齢化，連の活動に対する市民の理解といった課題があることを明らかにした．しかしながら，これらの課題解決に向けて具体的に連内外でどのような取り組みがなされているかについては，調査を実施するには至らなかった．

第 4 に，本研究では，連の活動がコロナ禍で制限を受けた程度について把握したものの，これらが中長期的な連の持続可能性にいかなる影響を与えたのか，といった点についてもさらなる継続調査が必要である．